

関係各位

2022年10月期 連結決算の概要

2022年12月8日
株式会社トップカルチャー

(1) 総括

当社グループの2022年10月期連結決算（2021年11月1日～2022年10月31日）は、以下の通りです。

- ・売上高*は、209億 5百万円（前年同期 264億 7百万円）
- ・営業損失は、1億 51百万円（前年同期 3億 56百万円）
- ・経常損失は、1億 84百万円（前年同期 2億 76百万円）
- ・親会社株主に帰属する当期純損失は、2億 72百万円（前年同期純損失 19億 39百万円）

* 当年より「収益認識に関する会計基準」を適用したことにより、前年売上高との比較ができないため、前年比は記載しておりません。

(2) 連結業績の要素別分析

当社グループの主軸である蔦屋書店事業において、賃貸借契約期間満了のため東京都内他5店舗の営業を終了したことが売上高/利益面共に影響いたしました。またそれに伴い発生した費用を特別損失に計上しております。

その他、エネルギーコストの高騰による光熱費の増加や各種備品、資材の大幅な値上げがあり販管費の負担が増し、利益面に大きな影響を与えました。さらに2022年9月に4年半ぶりにオープンした蔦屋書店佐久平店（長野県佐久市）における成長投資にかかる費用も時限的に発生しております。

また、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、閉店が確定した店舗を含め、収益性が低下している店舗の固定資産に対する減損損失を64百万円追加計上し、第3四半期計上分と合わせて89百万円を特別損失として計上いたしました。加えて雪害に伴う災害損失25百万円のほか、閉店に伴う固定資産処分損20百万円を合わせた135百万円を特別損失として計上いたしました。

一方、2022年6月よりトップカルチャーで展開するゲーム・リサイクル事業を、品揃えや在庫強化による売上拡大を目的とし、順次子会社トップボックスが展開するゲーム・リサイクル事業に切り替えを進めております。当期においては12店舗を蔦屋書店店内に「ふるいちトップボックス」としてオープンし、グループ全体の同事業における売上高は大きく伸長しております。今後も引き続き切り替えを進めてまいります。

また新店の蔦屋書店佐久平店につきましては、オープン以降順調に売上を伸ばしており、今後の業績に大きく寄与する見込みであります。

(3) 2023年10月期の通期業績予想

中期経営計画の最終年、事業転換における新規事業の1つとしてDAISOを導入することといたしました。当社運営で行う第1号店として、2022年11月25日に蔦屋書店長野川中島店に「DAISO長野南バイパス店」をオープンいたしました。今後も順次導入していく計画としております。しかし、その他事業転換を計画している中で、大幅な店舗改革及び業態変化を実行するにあたり、現時点では合理的な数値の算出が困難であると判断し、未定といたします。今後、合理的な判断が可能となった段階で速やかに公表いたします。

なお、コロナ感染拡大防止の対応で実施しておりました営業時間の短縮も11月より緩和いたしました。今後もウィズコロナ時代の感染状況に応じて営業時間等見直しを図ってまいります。

以上

本文書に関するお問い合わせ先： 株式会社トップカルチャー 取締役財務部長CFO 吉田 勝一
〒950-2022 新潟市西区小針4-9-1 電話:025-232-0008